



2019年12月期 中間決算説明会

2019年8月30日

クリヤマホールディングス株式会社（東証二部：3355）

2019年第2四半期決算概要

2019年第2四半期連結業績サマリー

上期の売上高・営業利益は過去最高を更新

(百万円)

	2018年2Q実績	2019年2Q		増減率(%)	
		予想	実績	前期比	予想比
売上高	26,029	28,000	29,394	+12.9	+5.0
営業利益	1,272	1,600	2,063	+62.2	+29.0
経常利益	1,627	1,700	2,067	+27.0	+21.6
当期利益	1,061	1,100	1,411	+33.0	+28.3

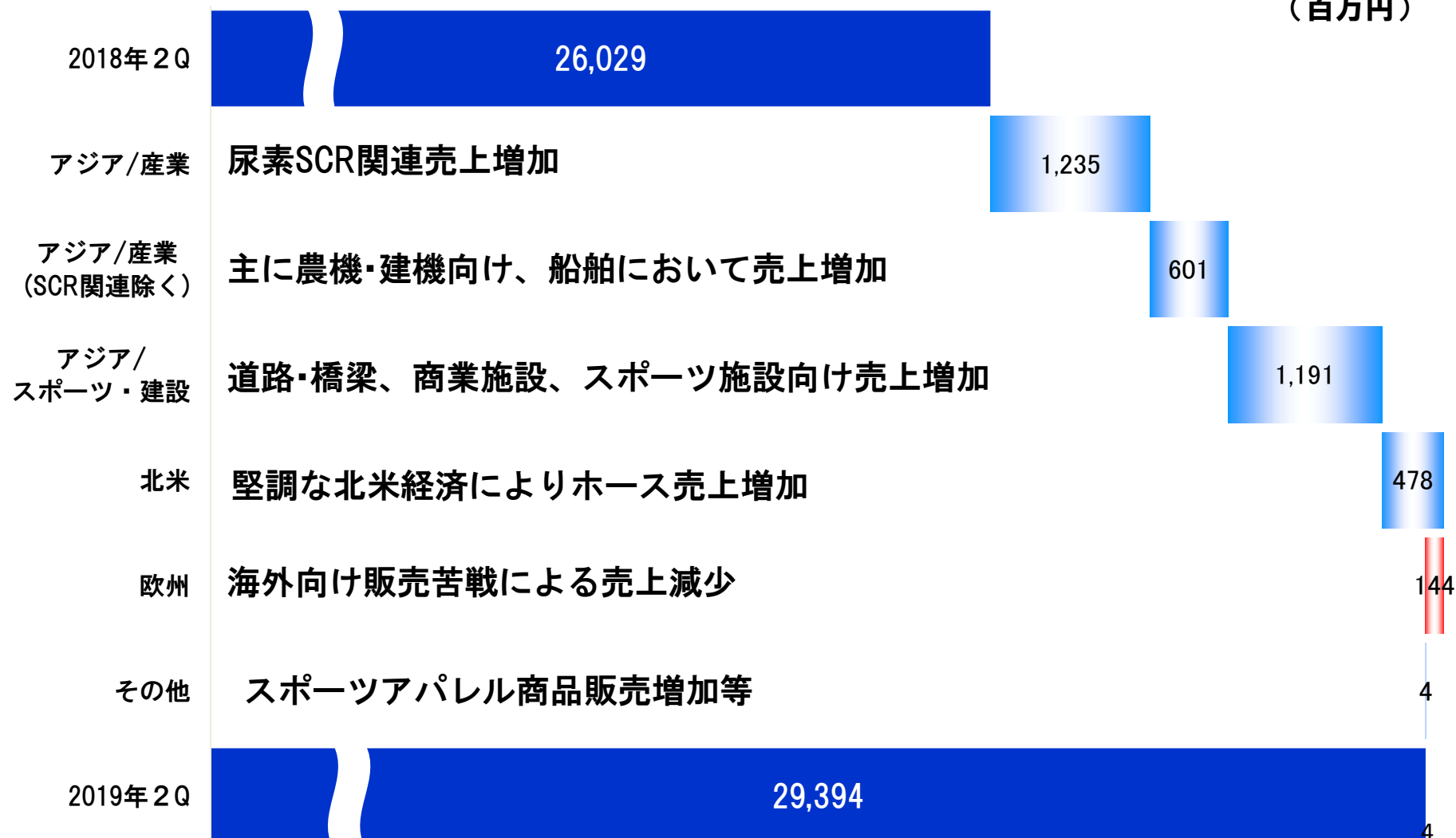
		2018年2Q実績	2019年予想	2019年2Q実績
為替 レート	米国\$	108.50円	107円	109.97円
	カナダ\$	84.55円	83円	82.65円
	ユーロ€	130.65円	125円	124.07円
	中国元	17.00円	15.50円	16.23円

為替換算影響額 (百万円)		
米国\$	売上高	200
	営業利益	15
ユーロ€	売上高	40
	営業利益	0

2019年2Q 売上高増減要因

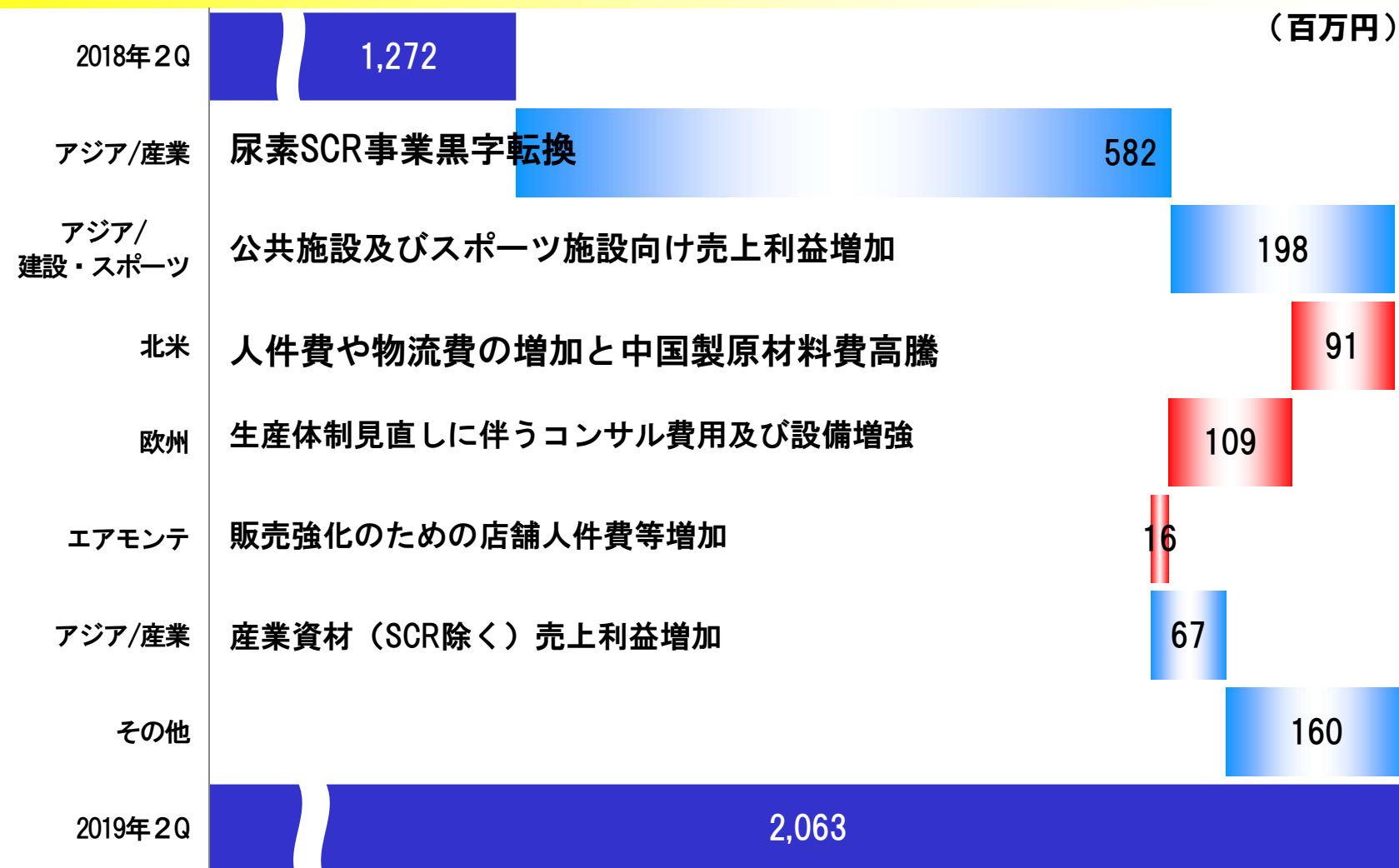
(株)サンエーを筆頭にアジア事業が伸長

(百万円)



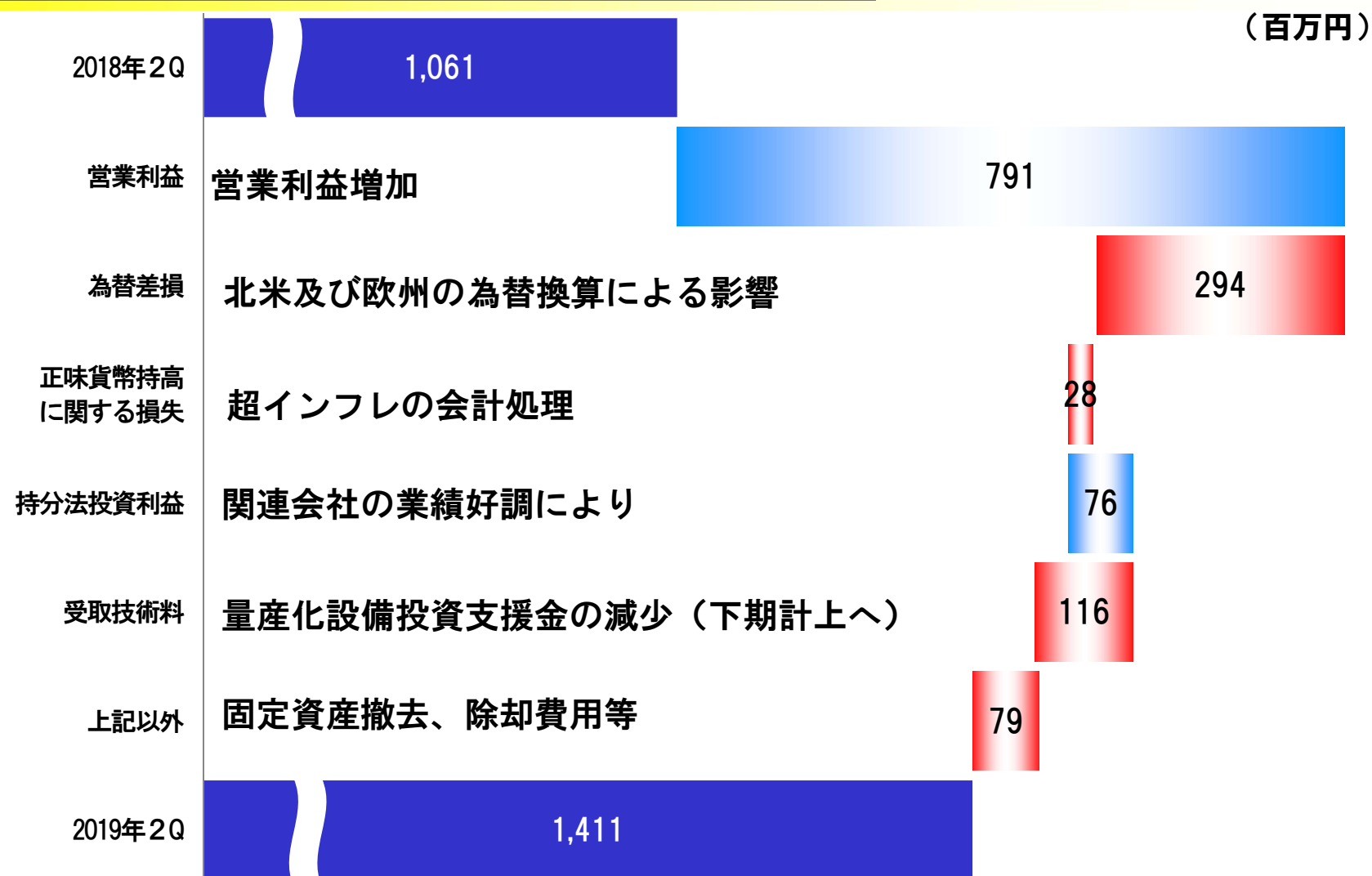
2019年2Q 営業利益増減要因

(株)サンエーの黒字転換により収益力が向上



2019年2Q 当期利益増減要因

為替の影響があるものの増収増益達成



セグメント別2Q実績



(百万円)

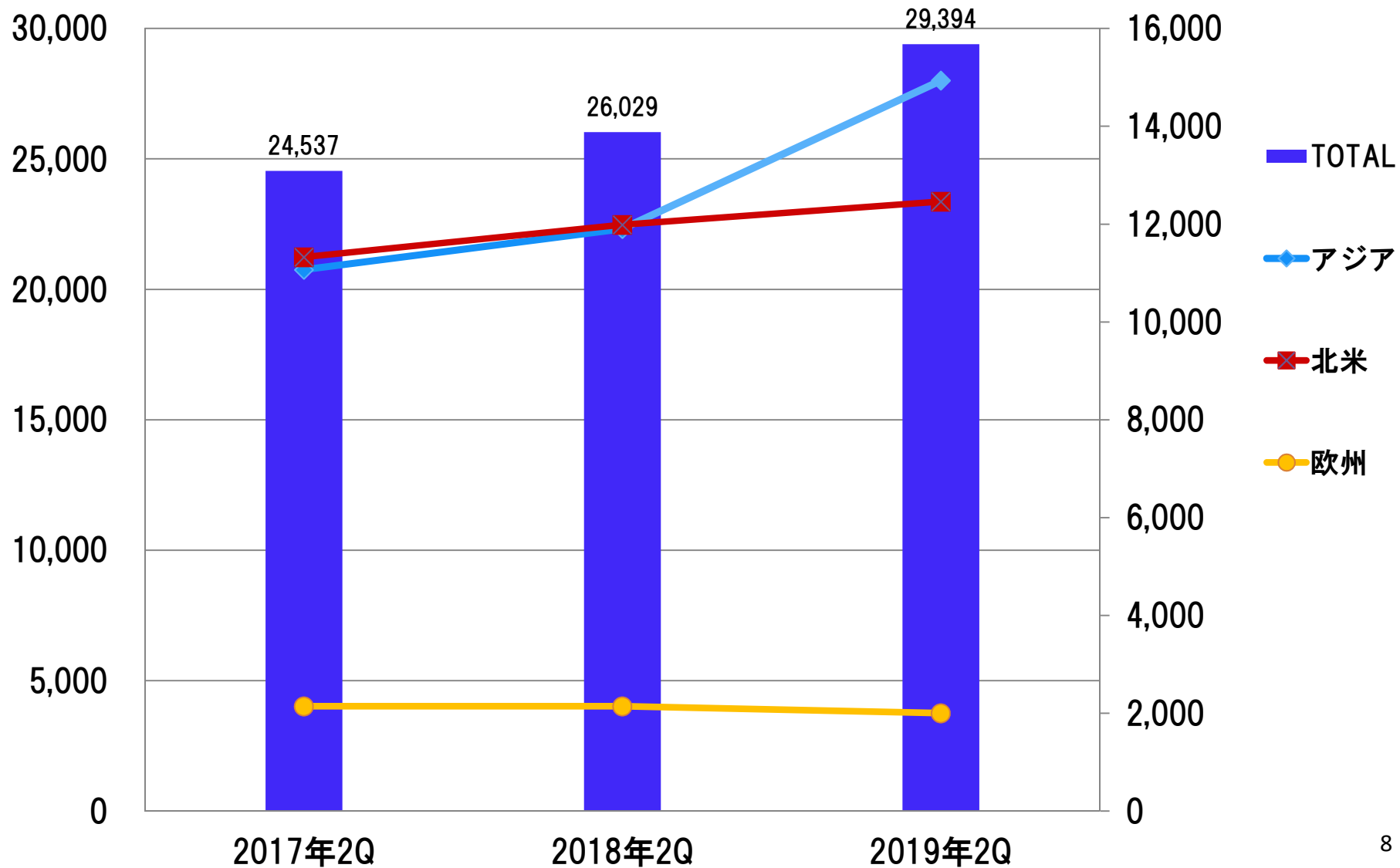
			2018年2Q	2019年2Q	前期比(%)	POINT
アジア事業	産業資材事業	売上高	6,634	8,471	+27.7	尿素SCR関連製品の販売増加。
		営業利益	351	936	+166.2	前期赤字だったサンエーの黒字化及び営業利益増加。
	スポーツ・建設資材事業	売上高	4,893	6,084	+24.3	「タラフレックス」及びインフラ関連・商業施設用タイルの販売増加。
		営業利益	398	574	+44.2	上記売上増加に伴う増加。
	その他事業	売上高	375	377	+0.5	「MONTURA」の販売増加。
		営業利益	△156	△58	—	「MONTURA」ブランドの販売強化に伴う販管費の影響。
アジア事業		売上高	11,902	14,932	+25.5	サンエーの黒字化をはじめとして、産業資材事業がアジア事業全体の売上、利益とも大きく牽引。
		営業利益	592	1,451	+144.8	
北米事業		売上高	11,985	12,464	+4.0	堅調な米国経済を背景にホース全般の販売堅調。
		営業利益	1,035	950	△8.2	臨時労働費や物流費の増加や中国製原材料のコストアップ等による影響。
欧州事業		売上高	2,141	1,997	△6.7	米国向け販売の伸び悩み。
		営業利益	112	△15	—	生産性向上のための先行設備投資費用やコンサルティング費用等の増加。
連結		売上高	26,029	29,394	+12.9	アジア事業が売上、利益とも大きく牽引。
		営業利益	1,272	2,063	+62.2	

※営業利益のセグメント間取引消去及び全社費用は表示していません

セグメント別2Q売上高推移

連結売上高
単位:百万円

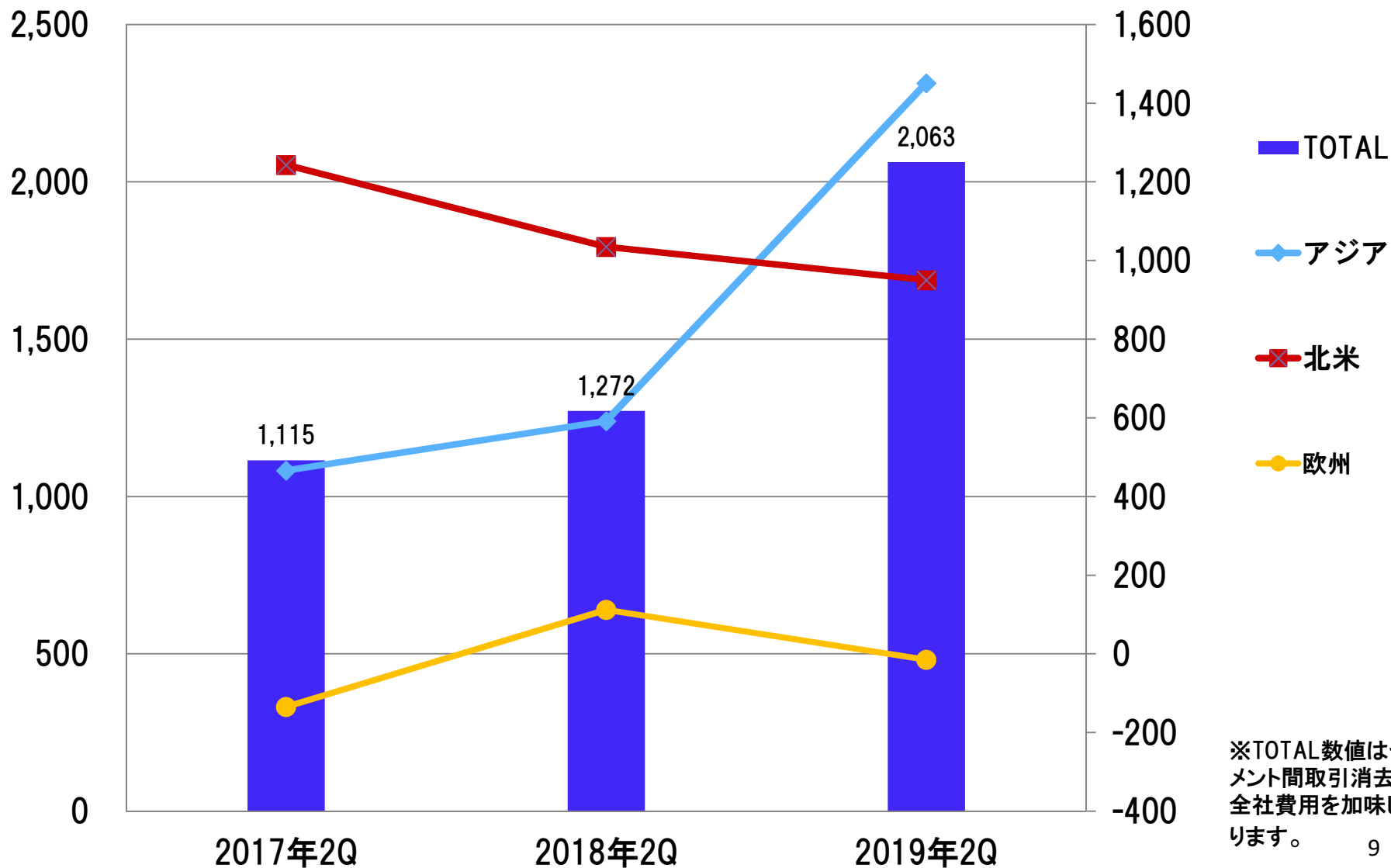
セグメント別売上高
単位:百万円



セグメント別2Q営業利益推移

連結営業利益
単位:百万円

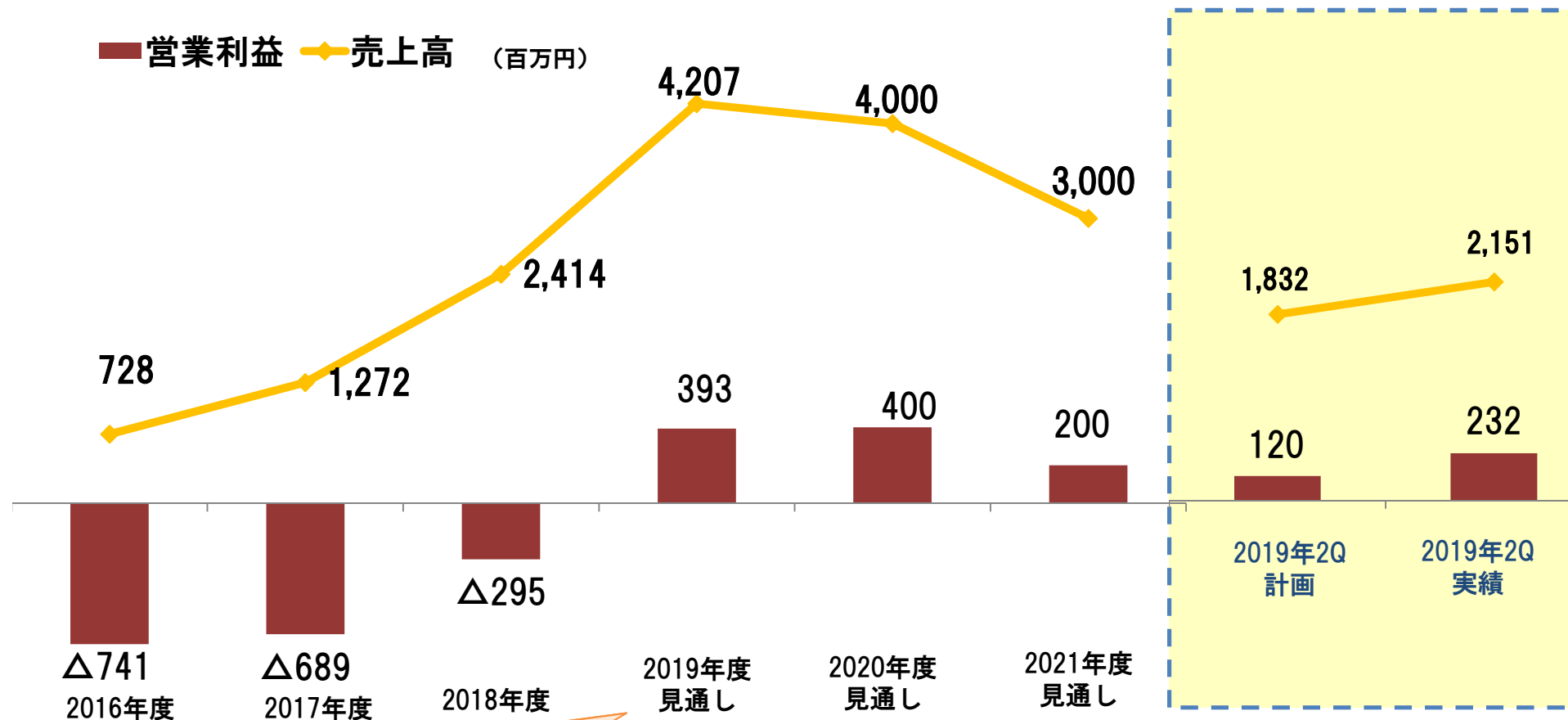
セグメント別営業利益
単位:百万円



SUN-Aの業績伸長



(株)サンエー 業績推移の見通し



2018年12月決算説明会資料で開示した計画数値より上方修正。
(前回2019年度見通し数値)
売上3,783百万円 利益302百万円

2021年以降は乗用車向け
が収束。安定した収益を
出せる体制に。

今後の見通し

2019年12月期 連結業績予想

(百万円)

	2018年12月期 (実績)			2019年12月期 (上期実績)				2019年12月期(下期計画・通期予想)			
	上期	下期	通期	上期 予想	上期 実績	予想比 (%)	前年 上期比 (%)	下期 計画	前年 下期比 (%)	通期 予想	前年 通期比 (%)
売上高	26,029	25,977	52,006	28,000	29,394	+5.0	+12.9	26,106	+0.5	55,500	+6.7
営業利益	1,272	856	2,128	1,600	2,063	+29.0	+62.2	987	+15.3	3,050	+43.3
経常利益	1,627	1,122	2,749	1,700	2,067	+21.6	+27.0	1,183	+5.4	3,250	+18.2
当期利益	1,061	678	1,739	1,100	1,411	+28.3	+33.0	689	+1.6	2,100	+20.8

通期業績予想は前回(2019年2月発表)から変更せず

		2018年実績	2019年2Q実績	2019年予想
為替 レート	米国\$	110.36円	109.97円	107円
	カナダ\$	84.87円	82.65円	83円
	ユーロ€	130.01円	124.07円	125円
	中国元	16.64円	16.23円	15.50円

セグメント別通期予想

(百万円)

			2018年 通期実績	2019年 通期予想	前期比(%)	2019年 上期実績	対通期予想 進捗率(%)	下期にかけてのPOINT
アジア事業	産業資材 事業	売上高	13,970	16,495	+18.0	8,471	51.4	
		営業利益	1,111	2,035	+83.2	936	46.0	
	スポーツ ・建設資材 事業	売上高	9,935	10,443	+5.1	6,084	58.3	
		営業利益	656	691	+5.3	574	83.1	
	その他 事業	売上高	739	835	+13.0	377	45.1	
		営業利益	△172	△39	—	△58	—	
アジア事業		売上高	24,646	27,774	+12.6	14,932	53.8	多角的事業展開によりアジア事業全体では、通期計画達成見込み。
		営業利益	1,594	2,688	+68.5	1,451	54.0	
北米事業		売上高	23,339	23,594	+1.0	12,464	52.8	米中貿易問題など不確定要素あり。クリスマス休暇や寒波の影響で下期にかけて落ちる傾向に。
		営業利益	1,610	1,695	+5.2	950	56.0	
欧州事業		売上高	4,020	4,131	+2.7	1,997	48.3	欧州やアルゼンチン経済、政治をめぐる混乱による影響など不確定要素多数。
		営業利益	△90	179	—	△15	—	
連結		売上高	52,006	55,500	+6.7	29,394	53.0	
		営業利益	2,128	3,050	+43.3	2,063	67.6	

※営業利益にはセグメント間取引消去及び全社費用は表示していません

経営戦略

クリヤマグループ経営戦略

グローバル戦略

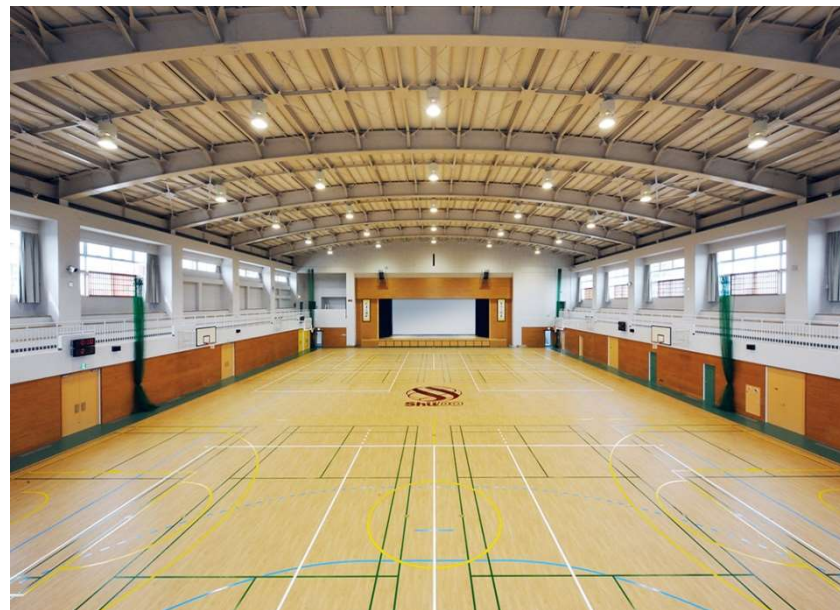
1. 日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーを目指す
2. 産業用ホースメーカーとして世界No.1ブランドを目指す
3. 現地生産・現地販売を推進する



クリヤマグループ経営戦略

国内営業戦略

1. スポーツアパレル “MONTURA” の販売拡大
2. スポーツ・オリジナル建材の再構築



グローバル戦略（産業資材事業）

日本の建機・農機のグローバルTier1サプライヤーを目指す



2012年夏、全国のクリヤマ機産資材メ
ンバーで検討した『SUN-A』との協業。これ
が全ての始まりでした。翌2013年、私の担
当していたお客様で、初めて具体的な話が動き
始めました。このお客様は、超音波という別方
式の新センサーを開発を進めていましたが、振動
で発生する気泡等の影響を受けて、思うように
開発が進んでいませんでした。SUN-Aの熱
式圧差識別センサーの長所は、なんといっても
も振動に強いこと。お客様はSUN-A製を試
されると、即決で方針転換。ハードな現場で動

く農機建機の排ガス規制は、この
センサー無しには成り立ちませ
ん。しかも、排ガス規制の厳格化
やそれに伴うセンサー需要増加
の風潮は既に見えていました。近
い将来、世界中の農機建機の需要
を独占できる可能性が、この企業には秘められ
ている……。株式が売りに出されると耳にする
や、経営陣の皆様のご指導の下、M&Aに乗り
出しました。

SUN-Aが利益の出る企業になるという想
定は、確かに初めからありました。しかし、想
定通りでなかった部分もあります。それまでの
経営状態から、適正価格で調達できない。各
国に猶予期間があり、規制開始が少し遅れた
為、注文数が不足するなど、経営に携わり1ヶ
月、どうしたものかと思っていたところに、い
わゆる「ディゼルゲート」が起ります。欧
州のディーゼル乗用車、トラック、農機建機を
含む全車種への排ガス装置設置を求める声は、
瞬く間に全世界へと拡散していきました。この

理想のメーカー像を描いて。

世界の需要に応える、

三井工業 KURIYAMA 2015 SPRING 7

- ・(株)サンエーとクリヤマ(株)との連携強化により、既に殆どの国内農機・建機との取引を開始済みであり、今後更なる取引増大を目指す
- ・日本のバス・トラックメーカーとの取引を強化
- ・中国・インド・ブラジル等の環境規制強化が大きな商機
- ・農機・建機の高機能化や小型化への対応による需要増加

←クリヤマ(株)社内報 春号(抜粋版)

グローバル戦略（北米・欧州事業）

産業用ホースメーカーとして世界No.1ブランドを目指す



・クリヤマグループの海外での事業展開のベースは、産業用ホースであり、既にブランドを確立。品揃えや品質面で世界No.1ブランドを目指す。

・課題であるコスト面に関しては、価格転嫁の継続的实施と中国製品との競争に打ち勝つ。



↑TIPSA新社屋／スペイン

グローバル戦略

現地生産・現地販売を推進する

【アセアン地域】



Kuriyama (Thailand) Co. Ltd. (KTL)

上海栗山貿易有限公司 (KSC)

・産業資材事業において、KTLやKSC等の海外各拠点でも日本同様高い品質の製品を現地で調達・製造できるよう現地での販売増を図り、アセアン地域の需要取り込みを強化する。

【グローバル地域】



・ホース事業において、北米、欧州、南米にある製販拠点のシナジー効果の最大化を目指し、商品供給力や品揃え、品質面の強化を図る。

国内営業戦略（MONTURA）



スポーツアパレル モンチュラの販売拡大

スポーツアパレル国内出荷額推移

（単位：百万円/ unit: 1million）

Percent from previous year

		2018年		2019年	
ALPINE	ALPINE WEAR SKI SNOWBOARDING	9,970	100.4%	9,900	99.3%
OUTDOOR	OUTDOOR LIFESTYLE WEAR	154,670	110.5%	164,260	106.2%
GOLF	GOLF WEAR	93,600	101.7%	95,500	102.0%
ATHLETE	FITNESS WEAR	11,000	106.4%	11,700	106.4%
	TOTAL	269,240	102.8%	281,360	104.5%

（出典:矢野経済研究所調査）

・斜陽産業といわれるアパレル産業においても、スポーツアパレルの市場だけは右肩上がり。全体で約6,000億円と言われる巨大な市場のうち、約半分以上を占める4つのカテゴリに特化した販売展開を行う。

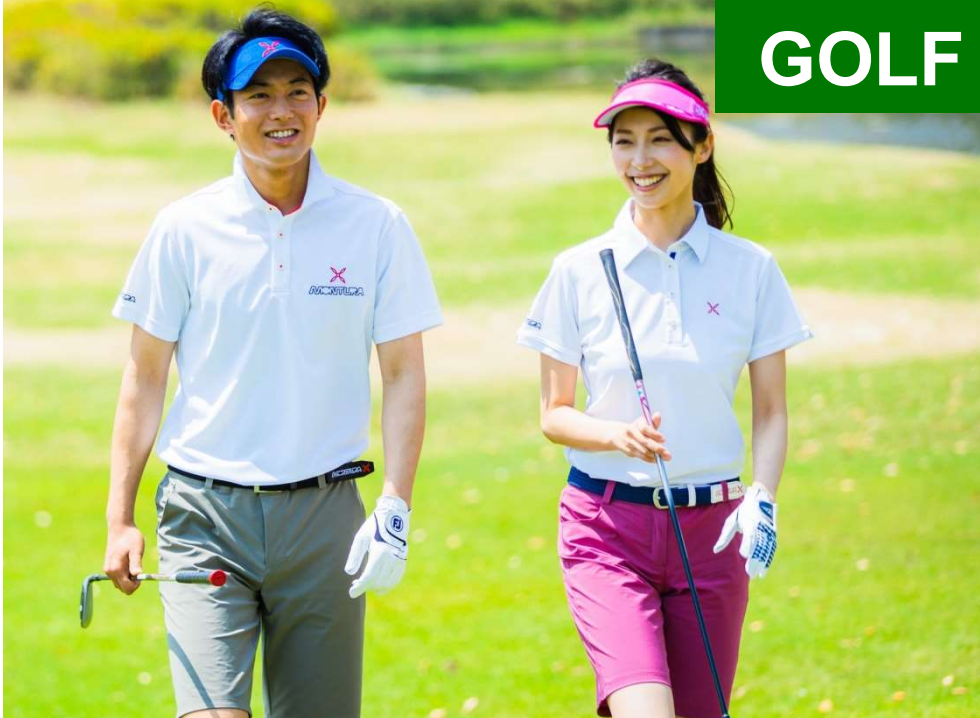
ALPINE



OUTDOOR



GOLF



ATHLETE



クリヤマ所属プロゴルファー 佐藤 大平



1993年7月9日生まれ（26歳）

兵庫県宝塚市出身

両親の影響でゴルフを始め、

「全国中学選手権」優勝、「関東高校選手権」連覇、大学時はナショナルメンバーとして、「ユニバーシアード」での金メダル獲得など活躍をみせる。

プロ転向後、2018年より「クリヤマ」所属、AbemaTVツアーで2勝し、見事賞金王となった。

2019年はレギュラーツアーに参戦。今後の活躍が期待される。



写真(下)提供:JGTO「一般社団法人 日本ゴルフツアー機構」

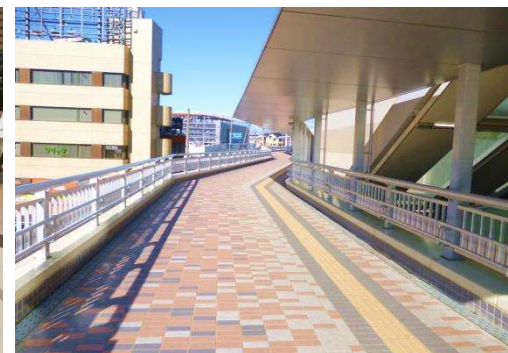
国内営業戦略（建設・スポーツ資材）



スポーツ・オリジナル建材の再構築



2020年東京オリンピック以降は、少子高齢化によりインフラ整備やスポーツ施設、商業施設への投資の減少が予測される。スポーツ分野の販売方法と販売体制、在庫政策を見直し、また事業領域の再構築を進める。



←クリヤマ(株)社内報 夏号(抜粋版)

モンド社製トラック



来年開催の東京オリンピック・パラリンピック大会メイン会場となるオリンピックスタジアムにおいて「オリンピックスタジアム及びウォームアップ会場におけるトラックサーフェス（表層）工事並びにウォームアップ会場整備工事」を大会組織委員会より受注。工事は順調に進行。

会場に採用されるトラックは当社が総輸入販売元であるモンド社製。

モンド社製トラックは1976年モントリオール大会以降12大会連続の採用。

ご清聴誠にありがとうございました。



＜お問い合わせ先＞

クリヤマホールディングス株式会社 経営企画部
〒540-6325 大阪府中央区城見1丁目3番7号
松下IMPビル25階

E-Mail : IR@kuriyama.co.jp

TEL 06-6910-7023 FAX 06-6910-7035

<https://www.kuriyama-holdings.com>



クリヤマホールディングス株式会社
KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION



補足資料

補足資料1 要約貸借対照表①



〔資産の部〕

(単位:百万円)

	2018/12	2019/06	増減額
現金及び預金	5,976	5,443	△533
受取手形・売掛金 (電子記録債権含む)	8,940	10,573	+1,633
たな卸資産	13,126	12,864	△261
その他	731	681	△50
流動資産合計	28,774	29,562	+788
有形固定資産	9,069	9,609	+540
無形固定資産	1,848	1,620	△228
投資その他の資産	5,893	6,069	+176
固定資産合計	16,811	17,299	+488
資産合計	45,585	46,861	+1,276

期末レート 米国\$: 2018年12月 → 111.00円 2019年6月 → 107.79円
 ユーロ€: 2018年12月 → 127.00円 2019年6月 → 122.49円

要約貸借対照表②



〔負債・純資産の部〕

(単位:百万円)

	2018/12	2019/06	増減額
支払手形・買掛金 (電子記録債務含む)	8,132	8,715	+583
借入金(1年内長借含)	7,526	6,756	△770
その他の	2,435	2,675	+240
流動負債合計	18,094	18,147	+53
借入金	5,214	5,204	△10
その他の	1,592	2,096	+504
固定負債合計	6,806	7,300	+494
負債合計	24,900	25,448	+548
株主資本合計	20,204	21,242	+1,038
その他包括利益合計	448	140	△308
非支配株主持分	31	30	△1
純資産合計	20,685	21,413	+728
負債、純資産合計	45,585	46,861	+1,276

補足資料2 キャッシュフロー、設備投資等

(単位:百万円)

	2018/06	2019/06	増減額
営業CF	398	1,398	+999
投資CF	△587	△263	+323
FCF	△188	1,134	+1,323
財務CF	1,206	△1,064	△2,271
現金及び 現金同等物	6,155	5,442	△713

(単位:百万円)

設備投資額	657	582	△74
減価償却費	578	680	+101
のれん償却費	68	68	+0
研究開発費	155	158	+2

補足資料3 業績見通し

(百万円)

	2018年実績	2019年予想	前期比 (%)	POINT
売上高	52,006	55,500	+6.7	アメリカ経済の動きが少し低調になっても売上は堅調へ
営業利益	2,128	3,050	+43.3	サンエーの黒字化と欧州の生産性向上が貢献へ
経常利益	2,749	3,250	+18.2	インフレ会計の影響など軽微
当期利益	1,739	2,100	+20.8	大きな特損等を想定せず
ROE (%)	8.4	9.2	+9.5	
自己資本比率(%)	45.3	47.6	+5.1	
有利子負債増減額 CFベース(減少△)	2,034	△30	—	
設備投資額	1,538	1,979	+28.7	サンエーの設備投資一服、北米と欧州・南米での設備増強
減価償却費	1,258	1,327	+5.4	サンエーの設備投資一服等
1株当たり配当金	38円	※20円	※2円増配	増配傾向を維持

※2019年1月1日実施の株式分割の影響を考慮（実質前期より2円増配）

(百万円)

為替	2018年実績	2019年予想	為替感応度		主な要因
			売上高	営業利益	
USD	110.36	107	200	15	円高への動きに警戒
EUR	130.01	125	40	0	

本資料にかかる注意事項

この資料は投資家の参考に資するため、クリヤマホールディングス株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

今後新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

